

春日の大楠

入田町中央の鮎喰川に架かる、春日橋の南橋詰め近くに、1本の大楠があります。樹勢はすこぶる盛んで、東西36m、南北38mと大きく張った枝葉が見事です。地上高1.3mにおける幹回りは9.3mもあり、県内のクスノキとしては幹回りの大きさを14位になる巨樹であります。大地にどっかと根を下ろし、約450年の風雪に耐えた姿は、無言のうち我々に大きな力を与えてくれます。

入田町春日の地名が示すように、昔ここに春日神社がありました。クスノキは境内の神木にもなっていました。春日神社は、蜂須賀家政が阿波へ封ぜられるとともに、入田町から現在の眉山大滝山のふもとに移ったと伝えられ、元県社春日神社となった。現在は、境内に春日神社跡の石柱とクスノキが残されたものであります。

道路沿いのコンクリート壁面に、「樟の木と子供たち」という題で、陶板絵が設置されています。

